

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572210110		
法人名	有限会社 湯の里		
事業所名	グループホーム 茜		
所在地	秋田県山本郡三種町森岳字街道東222番地6		
自己評価作成日	平成30年10月13日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・住宅地に立地し、開放的な窓からは四季折々の花々やジュンサイ沼などが見え、豊かな自然に恵まれている。広い敷地には花壇や畑があり、新鮮な野菜を味わうことができる。また、敷地内に果樹(梅、柿、栗等)があり、秋になるとホームで収穫を楽しみ交流を図っている。</p> <p>・外出の機会を多くし、お花見や紅葉見物にはお弁当を持参し買い物なども楽しんでいる。利用者さんと一緒に過ごすことで信頼関係を築いている。</p> <p>・当事業所で開催する鍋っ交流会や行事では、家族の方や地域のボランティアさんにも参加して頂き交流を図っている。</p> <p>・歌の好きな利用者さんが多く、ホーム内ではいつも歌声が聞こえ穏やかに過ごされている。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成30年11月15日		

<p>管理者を中心とした全職員は、チーム一丸となり理念と施設目標の実現を図るため、利用者の意思や思いを最優先にした支援を提供しており、職員の笑顔あふれる対応が利用者の満足度に繋がっている。ある職員は、常に理念を支援の中で実現するために、介護服のポケットに理念が書かれたメモを所持している等、理念を非常に大切にしている事が伺われた。</p> <p>職員研修に関しては、同法人内事業所と各種の研修を実施している他、事業所として介護福祉士等の国家資格を取得のための研修を積極的に実施している。</p> <p>また、このホームは平成16年に開設され14年ほど経過しているが、職員が行っている掃除がホームの隅々まで徹底されており、快適な生活空間が提供されている事が利用者の笑顔からも感じ取ることができた。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念は玄関と事務所に掲示し、いつでも確認できるようにしている。また、ホーム独自の目標も掲げて全職員で日々取り組んでいる。	理念とホーム独自の目標が職員全員に浸透しており、常に理念と目標を実現させるため意識しながら利用者支援を行っている。また、職員会議等でも理念の振り返りを行い、より良い支援に結び付けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの畑は、地域の方の協力を頂きながら育て収穫している。また、花壇に花を植え草取りまで行ったださる。秋の鍋っこには、近隣にも声かけをし交流を図っている。	ホームで作成した「茜だより」をホーム近隣の住民へ配布し、事業所の取り組み内容や行事等への参加について呼びかけを行っている。また、地域の方からはホームの畑や花壇の整備、行事等に積極的に協力を頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議では、認知症ケアについて情報発信している。中学生の職場体験では認知症の人の理解や支援の方法を伝えることができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を行い、利用者状況や実施報告、意見交換等を行っている。皆さんから助言、要望を聞きサービスの質の向上に努めている。	包括支援センター職員や地域民生委員等が出席し、利用者支援に係る相談事やホームの運営等についてアドバイスを頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	直接訪問したり、電話等で情報を伝えている。2カ月に1回の会議には担当者に出席頂き、協力関係を築いている。	市町村役場福祉担当の他、近隣にある警察派出所や消防署等との連携強化を図り、介護保険事業以外にも事業所の運営に関するアドバイス等を頂き、事業運営に役立たせている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束をしないケアを実践しており、禁止の対象となる行為について理解している。また、マニュアルを完備し、いつでも確認できるようにしている。	事業所独自のマニュアルが整備されており、マニュアルに基づいた研修を実施している。また、マニュアルは職員がいつでも確認できる場所に整備されており、支援で迷った時など常に活用していることが確認できた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、勉強会等で学ぶ機会があり、虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等にも参加して学ぶ機会を設けている。地域福祉権利擁護事業を利用している方がおり、関係者との連絡を密にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定等の際は利用者や家族に十分に説明を行い、理解、納得をした上で捺印を押して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内数か所に「意見箱」を設けて意見等があった場合は職員で共有し、業務に反映させている。また苦情についても、家族が納得のいく解決に努めている。	利用者とのさりげない日常会話等の中から、利用者自身の意思や思いを汲みとっている他、ホーム内2ヶ所に設置した意見箱や家族との面談及び電話連絡等を活用し、家族からの要望を聞き取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催し、職員の意見や提案を反映させている。また管理者会議で報告され、代表者は真摯に受け止め運営に反映されている。	支援に係る小さな気付きや業務改善等に関しては職員会議で話し合うとともに、設備や事業所運営上の事案であれば管理者会議で検討し、代表や専務に伝え意見の反映を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員が向上心を持って働けるよう勤務状況等を把握し、職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修計画を立て、職員のスキルアップに繋げている。また、資格取得に向けて積極的に進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業施設間で行事や研修等を行う機会があり、交流ができている。交流を通じてサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は利用に至るまでに、本人が困っていること、不安なこと、要望等を聴き安心して頂けるよう職員全員で努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望や困っていることに答え、信頼関係を築けるよう努めている。相談者や家族に施設を見学して頂き、安心して利用できるよう努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事や意欲を大事にしながら、職員は家族のような関係を築いている。コミュニケーションや傾聴等で信頼関係を築けるよう努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事には家族の方にも参加をお願いしている。いつでもホームに立ち寄れる雰囲気づくりを心がけている。本人、家族、職員と一緒に話し支えていけるよう努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係を大事にし、支援に努めている。友人や親類の訪問も多くなっており、関係維持できるよう支援している。	本人がホーム入所前から利用していた美容院には家族の協力を得て利用している他、散歩や畑での収穫時には、近隣住民と何気ない会話をし、なじみの関係が継続できるよう支援している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないよう常に目配り、気配り、会話に努めている。日中一人で部屋にいる事のないよう出来る事を行うように支援している。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した後も、必要とされるときは相談や支援に努めている。これまでの関係を断ち切らないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを把握し、日常生活の中で本人の希望や意向を取り入れていくよう努めている。	職員の強いチームワークにより、利用者の意思や思いを大切にされた支援が行われており、個々の外出や買い物、ドライブ等を行っている。また、帰宅要求のある利用者には、そっと寄り添い言葉を掛けている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、馴染んだ食器や家具、写真などを持ってきて頂き、それまでの生活環境、生きがい維持できるよう努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一人ひとりの過ごし方や心身状態の把握に努め、野菜の下処理、洗濯たたみ等本人の有する力が発揮できるよう支援している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の見直しには、本人や家族の要望を聴き職員会議や担当者会議を開催する。そこで援助内容の検討を行い、より良い暮らしができるよう話し合いをする。また、3か月に1度モニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。	日頃から職員間の連絡ノートを活用した取り組みを行っており、利用者の情報把握が徹底されている。そのため、介護計画作成に関しても全職員が協力して作成するため、利用者全員の介護計画を理解した支援の実現が図られている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録はペンの色を変え、体調の様子や日常の状態等を記録している。職員間で情報を共有できる体制を整えおり、介護計画の見直しに活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会で支援している、地域福祉権利擁護を利用している方がいる。このことで安心して暮らしを楽しむことができている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にかかりつけ医、歯科医、薬局を決めている。医療機関と関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族の希望に基づき、ホーム入所前から利用していた病院や診療所を引き続き利用している他、かかりつけ薬局からは、内服薬変更時に薬の成分や効果等について情報交換する等、協力体制が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、利用者の体調管理について訪問看護師に相談し、専門的なアドバイスをいただいている。適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と連絡を密にし、情報交換に応じており、安心して治療できるよう努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、ホームで出来る事を利用者や家族と話し合い、理解していただいた上で出来る事を支援している。	「重度化した場合の対応及び看取りに関する指針」を整備している他、訪問看護等の協力を得ながら、利用者が出来るだけ長くホームで生活できるよう、家族との面談を重ねながら対応している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	病院関係者と連絡を密にし、情報交換に応じており、安心して治療できるよう努めている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対策は会議等で周知行っている。マニュアルを整備している。年2回は消防署の立ち合いで避難訓練を実施している。	ホーム管理者と防火管理者が中心となり年2回の避難訓練の他、夜間想定した訓練を実施している。また、非常時に使用する発電機や資器材を整備するとともに、非常食も準備されている。	非常災害時、利用者の生命を守る上で地域住民の協力が不可欠である。今後も利用者が安心安全な生活を継続することが出来るよう、地域住民や地域消防団との連携強化等についてご検討下さい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重しプライバシーに配慮した言葉かけ、対応している。	利用者支援に関して、人権の尊重やプライバシー等に関する研修を実施しており、職員個々が常に意識しながら支援を行っている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや、希望を聴き入れ、日常生活の中で表現でき、自己決定できるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて生活を保ち、希望を取り入れた支援をしている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた身だしなみやおしゃれができるよう支援している。利用者が馴染みの美容院などを利用している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で採れた野菜を活かした献立や嗜好に合わせて一人ひとりメニューを替えている。野菜の下処理、食事、後片付けを職員と一緒にやっている。	利用者の意見が反映された旬の素材やホームの畑で収穫した野菜を活用した食事が提供されており、調査当日も地域の伝統食でもある「だまこもち」を利用者と職員が協力して家庭的な雰囲気の中で調理を行っている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう記録し、把握している。利用者の状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っている。援助の必要な利用者には職員と一緒に、義歯の消毒は専用の薬剤を使って週3回洗浄し清潔保持に努めている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、失敗や不安なく排泄できるよう、プライバシーに配慮し自立に向けた支援に努めている。	利用者のプライバシーを損ねる事がないように、一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声掛けをしながら自立排泄できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防する為に食事の工夫や運動、水分補給に努めている。解消されない場合は医師に相談し薬の調整を行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日バイタル測定を行い健康状態を把握し、利用者の希望に合わせて入浴を行っている。入浴を楽しめるよう入浴剤を入れ替え工夫している。	入浴する際、入浴剤やシャンプーが利用者の希望に応じて利用できる等、楽しんで入浴できるような工夫がされている。また、入浴の際には利用者がゆったりできる環境を作り、さりげない会話の中から利用者の思いを汲み取るようにしている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠できるよう日中の過ごし方を工夫している。休息も安心して眠れる支援している。夜間眠れない方は医師に相談し薬を処方、服薬をしている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬ケースには薬名、効能について記載している。薬ファイルには個々の薬名、働き、副作用等が記載され、職員は理解に努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の希望や思いを尊重し、できる範囲での役割や生活歴を活かした支援を行っている。嗜好品や楽しみ事を持っていただけるよう配慮している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿って日常的に散歩やドライブに出かけている。行きつけの美容院等、外出の支援もしている。家族の方々と一緒に鍋っ交流会を行った。	利用者個々の意思を尊重した外出を計画実施している他、ホーム全体での外出も頻繁に行われ、春は桜まつり、夏は砂像見学、秋には紅葉狩りと季節を感じる事が出来るような外出を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じて、預り金として保管しているお金を本人に渡して払ってもらうなどの支援をしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話が入ったり、本人が電話をかけたいとの希望があれば支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共通の空間は、木をふんだんに使用した落ち着いた雰囲気になっている。廊下には天窓が2か所設置され明かりを取り入れている。廊下には利用者の作品、写真等が飾られ居心地よく過ごせる工夫をしている。室内の温度を一定に保つよう整備されている。	廊下や居室、ホール等の隅々まで掃除が行届いている他、室温や湿度にも気を配る等、快適な生活空間が提供されている。また、ホールからはベランダや庭に直接出ることのできる入り口もあり、日光浴等を楽しめる空間づくりがされている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファが設置され、利用者同士や職員と一緒にくつろぎながら過ごすことができる。また、思い思いに過ごせるよう配慮している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、馴染みの食器や衣類等を持ってきて頂き、本人が心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベッドや家具等は利用者の希望に応じて配置されている他、自宅で使用していた家具を持ち込み、居心地良く過ごすことができるように配慮されている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、洗面所は場所の表示をして混乱のないようにしている。利用者が安全に自立した生活が送れるよう工夫をしている。		